

# デーヴォ ガイド



**2022.9.26-10.2**

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

## L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合いましょ。 (2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょ。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。  
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

## セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合いましょ。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょ。

## 家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?) 1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょ。

## 礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

## 26日 月曜

### 創世記



28:1 イサクはヤコブを呼び寄せ、彼を祝福し、そして彼に命じた。「カナンの娘たちの中から妻を迎えてはならない。

28:2 さあ立って、パダン・アラムの、おまえの母の父ベトエルの家に行き、そこで母の兄ラバンの娘たちの中から妻を迎えなさい。

28:3 全能の神がおまえを祝福し、多くの子を与え、おまえを増やしてくださるよう。そして、おまえが多くの民の群れとなるように。

28:4 神はアブラハムの祝福をおまえに、すなわち、おまえと、おまえとともにいるおまえの子孫に与え、神がアブラハムに下さった地、おまえが今寄留しているこの地を継がせてくださるよう。」

28:5 こうしてイサクはヤコブを送り出した。彼はパダン・アラムの、ラバンのところに行った。ヤコブとエサウの母リベカの兄、アラム人ベトエルの子ラバンのところである。

28:6 エサウは、イサクがヤコブを祝福したこと、またパダン・アラムから妻を迎えるために彼を送り出したことを知った。イサクが、ヤコブを祝福して送り出したときに、カナンの娘たちから妻を迎えてはならないと命じ、

28:7 ヤコブが、父と母の言うことに聞き従って、パダン・アラムへ行ったことも。

28:8 さらにエサウは、カナンの娘たちを、父イサクが気に入っていないことを知った。

28:9 それでエサウはイシュマエルのところに行き、今いる妻たちのほかに、アブラハムの子イシュマエルの娘で、ネバヨテの妹マハラテを妻として迎えた。

イサクはヤコブが長子の権利を継ぐ者として祝福し、アドバイスとビジョンを与え、委ねます。だま

し、だまされた結果であるのに、それが有効になってしまうのです。そして実際にヤコブの子孫からイスラエルが生まれ、救い主であるイエス様も生まれるのです。なぜこのような人々の中で起きたことが神様の導きとなるのでしょうか。

第一に神様は、罪でさえも、それを逆手にとってご自身の勝利とご計画へつなげるのできるお方です。そもそも人間は不完全で罪深い言動の多いものです。神様がその人間に介入なさるなら、当然そのようになるということでしょう。

第二に、神の計画が人間の知恵や功績によらずに、ただ神の真実によって成されることを表すためでしょう。神の計画にあづかっているからといって、その人に非がないとは言いきれないのです。

ヤコブは祝福のビジョンに導かれて信仰の道へと進みましたが、エサウは信仰で将来を見ることができずに、また父との関係もおかしくなり、信仰を考慮しない行動に出ました。神様がヤコブを選んだ理由がここにあるのかもしれませんが。信仰で将来を見て、決断してゆきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 27日 火曜

### 創世記



28:10 ヤコブはベエル・シェバを出て、ハランへと向かった。

28:11 彼はある場所にたどり着き、そこで一夜を明かすことにした。ちょうど日が沈んだからである。彼はその場所で石を取って枕にし、その場所で横になった。

28:12 すると彼は夢を見た。見よ、一つのはしごが地に立てられていた。その上の端は天に届き、見よ、神の使いたちが、そのはしごを上り下りしていた。

28:13 そして、見よ、【主】がその上に立って、こう言われた。「わたしは、あなたの父アブラハムの神、イサクの神、【主】である。わたしは、あなたが横たわっているこの地を、あなたとあなたの子孫に与える。

28:14 あなたの子孫は地のちりのようによくなり、あなたは、西へ、東へ、北へ、南へと広がり、地のすべての部族はあなたによって、またあなたの子孫によって祝福される。

28:15 見よ。わたしはあなたとともにいて、あなたがどこへ行っても、あなたを守り、あなたをこの地に連れ帰る。わたしは、あなたに約束したことを成し遂げるまで、決してあなたを捨てない。」

28:16 ヤコブは眠りから覚めて、言った。「まことに【主】はこの場所におられる。それなのに、私はそれを知らなかった。」

28:17 彼は恐れて言った。「この場所は、なんと恐れ多いところだろう。ここは神の家にほかならない。ここは天の門だ。」

28:18 翌朝早く、ヤコブは自分が枕にした石を取り、それを立てて石の柱とし、柱の頭に油を注いだ。

28:19 そしてその場所の名をベテルと呼んだ。その町の名は、もともとはルズであった。

28:20 ヤコブは誓願を立てた。「神が私とともにおられて、私が行くこの旅路を守り、食べるパンと着る衣を下さり、

28:21 無事に父の家に帰らせてくださるなら、【主】は私の神となり、

28:22 石の柱として立てたこの石は神の家となります。私は、すべてあなたが私に下さる物の十分の一を必ずあなたに献げます。」

ヤコブは兄をだまして望みのものを手に入れましたが、恨みをかい実家にいられなくなりました。神を信じて恵をもらうことには熱心でしたが、その方法が間違っていたということは、神様のみこころを行おうとしていなかったからです。

神様はそのような者をも愛しておられます。愛するがゆえに試練（多くは自分の不信仰、不忠実、自己中心から起きたことですが）を与え、その苦しい経験を通して、これまでの自分と向き合うようにされるのです。ヤコブは孤独と不安、そして疲れと寒さ、そんな中で自責の念にも苦しめられながら、たった一人で闇の中にいたのです。

神様は解決を与えてくださいました。が、それは目先の問題を解決するような即効性のあるものではありませんでした。何よりも、主がそのどん底状態において共におられるという事実です。そしてヤコブが本当に求めていた、大きな希望を約束してくださったのです。

私たちクリスチャンは、どんな人間的な努力も（哲学も宗教も思想も善行もプロジェクトも）罪を解決して天国へ導くとは考えていません。神であるイエス様の十字架だけが、罪の赦しと永遠のいのちをもたらすのは自明のことです。つまり救いのはしご、解決のはしごは天から伸ばされているのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 28日 水曜

### 創世記



29:1 ヤコブは旅を続けて、東の人々の国へ行った。

29:2 ふと彼を見ると、野に井戸があった。ちょうどその傍らに、三つの羊の群れが伏していた。その井戸から群れに水を飲ませることになっていたからである。その井戸の口の上にある石は大きかった。

29:3 群れがみなそこに集められたら、その石を井戸の口から転がして、羊に水を飲ませ、その石を再び井戸の口の元の場所に戻すことになっていた。

29:4 ヤコブがその人たちに「兄弟たちよ、あなたがたはどこの方ですか」と尋ねると、彼らは「私たちはハランの者です」と答えた。

29:5 それでヤコブが「あなたがたはナホルの子ラバンをご存じですか」と尋ねると、彼らは「よく知っています」と答えた。

29:6 ヤコブは彼らに尋ねた。「その人は元気ですか。」すると彼らは、「元気です。ほら、娘のラケルが羊を連れてやって来ます」と言った。

29:7 ヤコブは言った。「ご覧なさい。日はまだ高いし、群れを集める時間でもありません。羊に水を飲ませて、草を食べさせに戻ってはどうか。」

29:8 すると彼らは言った。「そうはできません。群れがみな集められて、井戸の口から石を転がすまでは。それから、羊に水を飲ませるのです。」

29:9 ヤコブがまだ彼らと話しているとき、ラケルが父の羊の群れを連れてやって来た。彼女は羊を飼っていたのである。

29:10 ヤコブは、母の兄ラバンの娘ラケルと、

母の兄ラバンの羊の群れを見ると、すぐ近寄って行って、井戸の口の上の石を転がし、母の兄ラバンの羊の群れに水を飲ませた。

29:11 そしてヤコブはラケルに口づけし、声をあげて泣いた。

29:12 ヤコブはラケルに、自分は彼女の父の甥であり、リベカの子であることを告げた。彼女は走って行って、父にそのことを告げた。

29:13 ラバンは妹の子ヤコブのことを聞くとすぐ、彼を迎えに走って行って、彼を抱きしめて口づけした。そして彼を自分の家に連れて帰った。ヤコブはラバンに事の次第をすべて話した。

29:14 ラバンは彼に「あなたは本当に私の骨肉だ」と言った。ヤコブは彼のところから一月滞在した。

ヤコブはあてもなく旅を続けなければなりません。それは心細いものだったでしょう。しかしその方向の定まらないような行程の中で、主は彼を導いておられたのです。それはまさに祝福の約束のゆえです。

ヤコブは羊飼いたちがハランの者であることを知って、ハランにいる親戚のことを尋ねました。そこは母の実家と関係がある場所だったのです。

私たちは行き場も解決もわからないで、歩みや心がさまようときがあります。その中でも神様は私たちが知らないうちに、正しい方向、解決の方向へと導いてくださるのです。決して投げ出したり、絶望感や自己憐憫に陥らないようにしたいものです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 29日 木曜

### 創世記



29:15 ラバンはヤコブに言った。「あなたが私の親類だからといって、ただで私に仕えることもないだろう。どういう報酬が欲しいのか、言ってもらいたい。」

29:16 ラバンには二人の娘がいた。姉の名はレア、妹の名はラケルであった。

29:17 レアは目が弱々しかったが、ラケルは姿も美しく、顔だちも美しかった。

29:18 ヤコブはラケルを愛していた。それで、「私はあなたの下の娘ラケルのために、七年間あなたにお仕えします」と言った。

29:19 ラバンは、「娘を他人にやるよりは、あなたにやるほうがよい。私のところにとどまっていなさい」と言った。

29:20 ヤコブはラケルのために七年間仕えた。ヤコブは彼女を愛していたので、それもほんの数日のように思われた。

29:21 ヤコブはラバンに言った。「私の妻を下さい。約束の日々が満ちたのですから。彼女のところに入りたいのです。」

29:22 そこでラバンは、その土地の人たちをみな集めて祝宴を催した。

29:23 夕方になって、ラバンは娘のレアをヤコブのところに連れて行ったので、ヤコブは彼女のところに入った。

29:24 ラバンはまた、娘のレアに、自分の女奴隷ジルパを彼女の女奴隷として与えた。

29:25 朝になって、見ると、それはレアであった。それで彼はラバンに言った。「あなたは私に何ということをしたのですか。私はラケルのために、あなたに仕えたのではありませんか。なぜ、私をだましたのですか。」

29:26 ラバンは答えた。「われわれのところ

では、上の娘より先に下の娘を嫁がせるようなことはしないのだ。

29:27 この婚礼の一週間を終えなさい。そうすれば、あの娘もあなたにあげよう。その代わりに、あなたはもう七年間、私に仕えなければならぬ。」

29:28 そこで、ヤコブはそのようにした。すなわち、その婚礼の一週間を終えた。それでラバンは、その娘ラケルを彼に妻として与えた。

29:29 ラバンは娘のラケルに、自分の女奴隷ビルハを彼女の女奴隷として与えた。

29:30 ヤコブはこうして、ラケルのところにも入った。ヤコブは、レアよりもラケルを愛していた。それで、もう七年間ラバンに仕えた。

レアは目が弱々しかったとありますが、この弱々しいにあたるヘブル語「ラコート」には「柔和」「やさしい」という意味もあります。これはヤコブの好みの問題だったのでしょうか。彼の好き嫌いははっきりしていたことがわかります。好みの女性のために7年間も忍耐して働いたというのは、ある意味すばらしいのですが、彼の「欲しいものを手に入れたい」という性格からすると、きよめられなければならない点があったわけです。

ヤコブはラバンの都合で彼にだまされたのですが、それはまさに以前自分がやったことです。ラバンが悪いのか、ヤコブが悪いのか。またはこの家系はそんなだましあいの家系なのか、などと人は考えますが、神様の視点で見るとどれも意味のない議論です。

神様はヤコブを自分の罪に気付かせ、取り扱って、きよい成長した者に変えたいのです。そして人類を救い祝福するという神の大いなるご計画を、ヤコブを通して成就なさろうとしているのです。

ヤコブはそのことを少しは感じたのかもしれませんが。ラバンと争うことをせずに、もう7年間仕えました。

人と争い自分を正当化することは簡単です。しかし、それは不毛であり、ときにはサタンに用いられます。神の視点で見る必要があります。遠回りの中で神様はそこでしか得られない恵を与えてくださいます。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



29:31 【主】はレアが嫌われているのを見て、彼女の胎を開かれたが、ラケルは不妊の女であった。

29:32 レアは身ごもって男の子を産み、その子をルベンと名づけた。彼女が、「【主】は私の悩みをご覧になった。今こそ夫は私を愛するでしょう」と言ったからである。

29:33 彼女は再び身ごもって男の子を産み、「【主】は私が嫌われているのを聞いて、この子も私に授けてくださった」と言って、その子をシメオンと名づけた。

29:34 彼女はまた身ごもって男の子を産み、「今度こそ、夫は私に結びつくでしょう。私が彼に三人の子を産んだのだから」と言った。それゆえ、その子の名はレビと呼ばれた。

29:35 彼女はさらに身ごもって男の子を産み、「今度は、私は【主】をほめたたえます」と言った。それゆえ、彼女はその子をユダと名づけた。その後、彼女は子を産まなくなった。

ルベン、シメオン、レビ、ユダの誕生のいきさつが書かれています。その母、レアは妹ラケルへの対抗心から子をもうけたのですが、それも主の摂理の内において、後にイスラエルの各部族となりました。

人がすることは完全に純粋な動機ということはありません。しかし、ある時に主は、御計画のままに全てを働かせて、みわざを成し遂げてくださいます。ヤコブと彼に関わる出来事がそうであったように、私たちも同じでしょう。ただし、主はヤコブを訓練し変えられたように、私たちをも同じように訓練してください。

完全ではないとしても、主に頼って従ってゆきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 1日 土曜

### 創世記



30:1 ラケルは自分がヤコブに子を産んでいないのを見た。ラケルは姉に嫉妬し、ヤコブに言った。「私に子どもを下さい。でなければ、私は死にます。」

30:2 ヤコブはラケルに怒りを燃やして言った。「私が神に代わられるというのか。胎の実をおまえに宿らせないのは神なのだ。」

30:3 彼女は言った。「ここに、私の女奴隷のビルハがいます。彼女のところに入り、彼女が私の膝に子を産むようにしてください。そうすれば、彼女によって私も子を得られるでしょう。」

30:4 ラケルは彼に女奴隷ビルハを妻として与えたので、ヤコブは彼女のところにいった。

30:5 ビルハは身ごもり、ヤコブに男の子を産んだ。

30:6 そこでラケルは、「神は私をかばってください、私の声を聞き入れて、私に男の子を与えてください」と言った。それゆえ、彼女はその子をダンと名づけた。

30:7 ラケルの女奴隷ビルハは再び身ごもって、ヤコブに二番目の男の子を産んだ。

30:8 そこでラケルは、「私は姉と死に物狂いの争いをして、ついに勝った」と言って、その子をナフタリと名づけた。

30:9 レアは自分が子を産まなくなったのを見て、彼女の女奴隷ジルパをヤコブに妻として与えた。

30:10 レアの女奴隷ジルパはヤコブに男の子を産んだ。

30:11 レアは「幸運が来た」と言って、その子をガドと名づけた。

30:12 レアの女奴隷ジルパはヤコブに二番目

の男の子を産んだ。

30:13 レアは、「なんと幸せなことでしょう。女たちは私を幸せ者と言うでしょう」と言って、その子をアシェルと名づけた。

ラケルとレアの競い合いはとどまることなく続きました。ラケルは主に祈り求めるのではなく、夫に求めます。それも「嫉妬し」とあります。ここには信仰が働いていません。ヤコブの言うことは間違っていないのですが、「怒りを燃やして」とあります。彼もまた信仰ではなく、自分の感情が優先されています。

その後には彼女たちはそれぞれの女奴隷によって子を得るのですが、その子たちがイスラエルの部族となってゆきます。このように主の御計画は人間を通して成されますから、人間の不信仰さえも結果的に用いられるように見えます。しかし、働かれるのは主御自身です。

私たちは、主のみわざが成されたからといって、自分の行動が正しいわけではないと知る必要があります。そして主は、みわざとともに私たちを矯正されます。ヤコブはそれゆえ大いに苦労しました。信仰的に歩むことが一番ですが、そうでない行動をとったなら、主に聞いて従いましょう。それによって、主の御計画が祝福となるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 2日 日曜

### 創世記

30:14 さて、妻の刈り入れのころ、ルベンは出て行って、野で恋なすびを見つけた。そして、それを母レアのところを持って来た。すると、ラケルはレアに「どうか、あなたの息子の恋なすびを少し私に下さい」と言った。

30:15 レアはラケルに言った。「あなたは私の夫を取っても、まだ足りないのですか。私の息子の恋なすびまで取り上げようとするのですか。」ラケルは答えた。「では、あなたの息子の恋なすびと引き替えに、今夜、あの人にあなたと一緒に寝てもらいます。」

30:16 夕方になって、ヤコブは野から帰って来た。レアは彼を出迎えて言った。「あなたは私のところに来ることになっています。私は、息子の恋なすびで、あなたをようやく手に入れたのですから。」その夜、ヤコブはレアと寝た。

30:17 神はレアの願いを聞かれたので、彼女は身ごもって、ヤコブに五番目の男の子を産んだ。

30:18 そこでレアは、「私が女奴隷を夫に与えたので、神は私に報酬を下さった」と言って、その子をイッサカルと名づけた。

30:19 レアはまた身ごもって、ヤコブに六番目の男の子を産んだ。

30:20 レアは言った。「神は私に良い賜物を下さった。今度こそ夫は私を尊ぶでしょう。彼に六人の子を産んだのですから。」そしてその子をゼブルンと名づけた。

30:21 その後、レアは女の子を産み、その子をディナと名づけた。

30:22 神はラケルに心を留められた。神は彼女の願いを聞き入れて、その胎を開かれた。



30:23 彼女は身ごもって男の子を産み、「神は私の汚名を取り去ってくださった」と言った。

30:24 彼女は、その子をヨセフと名づけ、「【主】が男の子をもう一人、私に加えてくださるように」と言った。

恋なすびとは、いわゆる妊活のための薬用効果があったものと思われます。子どもが与えられるのは神様の御心なのに、人間的な都合と方法によるところが、レアとラケルの競争を表しています。このように私たちも、目的や方法において神様をないがしろにはしていないか吟味して見る必要があります。時には自分の願が強すぎて、神様を見失うからです。

それにしてもこのようないきさつで、神様の選ばれたイスラエル部族が誕生したとは、複雑な気持ちにさせられます。しかしまたこれが地上の現実でもあります。そのような人間の不信仰をも神様は御計画に用いられるのです。

私たちの人生もそうですし、また教会も同じでしょう。ですから私たちはいつでも神様の憐れみに戻る事ができるのです。神様の回復と軌道修正はいつでも可能なのです。ただしヤコブのように、主を求めることが必要です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

